

## 講座⑤仏教の教えとその美術

**第1講義** 飛鳥・奈良時代の阿弥陀仏信仰

日本の阿弥陀仏信仰は飛鳥時代以来の伝統があります。平安時代には貴族社会に流布して絢爛豪華な浄土教文化を形成し、中世には庶民の間にまで広まって、人々の苦しみを救う機能を果たしました。各時代の社会が要請した宗教としての役割を果たしつつ、現代においても私どもの心の拠り所となっています。第1回の講義では、黎明期の阿弥陀仏信仰の様相について、文献や美術作品を手がかりとして考えてみたいと思います。

**第2講義** 平安時代の阿弥陀仏信仰

阿弥陀仏信仰が貴族社会の広範に流布するのは10世紀のことです。そのきっかけは比叡山における念仏法会の興隆でした。貴族たちがその法会に興味を示し、極楽への往生を願うようになったのです。平安時代の阿弥陀仏信仰は、都の貴族と山の学僧とによって育まれました。その実態について、文献や美術作品を手がかりとして考えてみたいと思います。

**第3講義** 法隆寺の美術を味わう

法隆寺に所蔵される主要な作品を概観し、古代の仏教美術の傾向と特徴をつかみます。また、近年の研究動向にも目を配り、それらの作品を東アジアの枠組みで捉えます。特に実地に見学する作品について、過去に法隆寺を見学された方にも、より豊かな鑑賞体験ができるような知識提供を行う予定です。

**第4講義** 現地講義：法隆寺の美術を味わう

法隆寺に訪れ、実際の作品を鑑賞します。西院伽藍、大宝蔵院、東院伽藍の順に一般的な見学ルートを巡りますが、特徴的な伽藍配置、堂内の空間構成や作品の大きさなどは現地でこそ体感できるものです。（現地で見ることができない部分の写真は6月21日の講義の際に紹介します。）他のお客様の手前、現地では個人での見学を中心としますが、必要に応じて補足説明を行います。

**第5講義** 西琳寺五輪塔と西大寺系律宗の拡大

西琳寺境内の大きな五輪塔は、同寺中興開山である惣持の墓塔と推定されます。同塔は、奈良の西大寺で活躍した叡尊墓の五輪塔をモデルとしたもので、西大寺系律宗の布教活動によって各地でよく似た五輪塔が造営され、墓地が整備されました。講座では、西琳寺に安置されるまでの経緯と旧在地の所見、そしてこの塔群の歴史的な背景についてお話しします。

**第6講義** 現地講義：西大寺中興叡尊墓所とその弟子の墓所を拝観する

西大寺奥之院の叡尊墓五輪塔（西大寺のお寺は拝観しません）と西方院の五輪塔を拝観します。当日は、近鉄西大寺駅南口に集合し、西大寺奥之院（拝観）→喜光寺→垂仁天皇陵（宝来山古墳）→西方院（拝観）。解散にあたって、近くにある唐招提寺、薬師寺について簡単に説明します。  
※帰りの最寄り駅は近鉄西ノ京駅です。徒歩での移動になりますので、各自で暑さ対策などお願いします。